

CITATION: Kemp E, Kingswood CJ, Kibuka M, Thornton JG. Position in the second stage of labour for women with epidural anaesthesia *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2013, Issue 1. Art. No.: CD008070. DOI: 10.1002/14651858.CD008070.pub2.
CRG名: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group.

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 30 October 2012
Clib issue No.: N/U: 2013 Issue 1; Update

アブストラクト

背景: 分娩での疼痛緩和に対する硬膜外麻酔により、分娩第2期が遷延する結果、器械的分娩が増加する。第2期中すべてあるいは一部で母体を垂直位にすると、このような有害作用を防止すると示唆されている。

目的: 硬膜外麻酔を受ける女性での重要な母体と胎児のアウトカムに対する分娩第2期中の異なる分娩体位(垂直位と臥位との比較)の効果を評価すること。

検索戦略: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Register(2012年6月30日)および取出した研究の文献リストを検索した。

選択基準: 種類を問わず硬膜外麻酔を受ける誘発または自然分娩第2期の妊婦(初妊婦または経産婦のいずれか)を対象にしたすべてのランダム化試験または準ランダム化試験。

あらゆる臥位のコントロール群と比較している、分娩第2期中の母体でのあらゆる垂直姿勢を介入とした。

データ収集と分析: 2名のレビューアが選択について試験を別々に評価し、バイアスリスクを評価しデータを抽出した。データの正確性についてチェックした。欠損データを得るため著者に連絡を取った。

主な結果: 879名の女性を対象とした5件のランダム化比較試験(RCT)を本レビューに選択した。

全体として、主要アウトカムである手術産(帝王切開または器械的経膈分娩)[平均リスク比(RR)0.97、95%信頼区間(CI)0.76~1.29、5試験、女性874名]、および出産間隔に対しランダム化して測定した分娩第2期の時間(平均差-22.98分、95%CI -99.09~53.13、2試験、女性322名)に、垂直位と臥位で統計学的に有意な差を認めなかった。また、器械的分娩と帝王切開の別々の罹患率、縫合を要する産道裂傷、胎児機能不全に対する手術産、臍帯pH低値、新生児集中治療室への入院などの重要な母体と胎児のアウトカムにも明らかな差を同定しなかった。しかし、各推定値のCIは広く、臨床的に重要な効果を否定できなかった。

多量失血、第2期遷延、母体の分娩体験と満足度に関するデータの報告はなかった。同様に、アプガースコアに関する解析可能なデータはなく、呼吸器の必要性や周産期死亡の報告のデータはなかった。

レビューアの結論: 硬膜外麻酔を受ける女性での分娩第2期の体位の効果について、結論を言えるデータは不十分であった。硬膜外麻酔を受ける女性は、分娩第2期において効果的と思われる体位をとれるよう推奨されるべきである。今後の研究では、女性が維持できる体位の大規模な試験と事前に規定したエンドポイントが含まれるべきである。1件の大規模試験が進行中である。

平易な要約(Plain language summary)

分娩疼痛緩和に硬膜外麻酔を用いる女性の分娩後期での垂直位と臥位との比較

硬膜外麻酔は分娩の疼痛緩和に最も有効な方法です。硬膜外麻酔はしばしば女性に用いられますが、分娩を長引かせたり、鉗子分娩や吸引分娩の必要性が高くなったりします。器械的分娩により、子宮脱、尿失禁、性交痛が女性に発症する可能性があります。低用量の硬膜外麻酔は「歩行」できる硬膜外麻酔としても知られており、分娩中にも女性が動けることを意味します。分娩後期での垂直姿勢(立位、座位、しゃがみこみなど)により硬膜外麻酔のこれらの有害な作用を減らせると示唆する医師もいます。このレビューで評価した5件のランダム化比較試験(RCT)(女性879名)では、臥位に比べて何らかの垂直姿勢による明らかな効果は示されませんでした。しかし、試験の規模は小さく、程度は小さいが重要な何らかの利益または有害性を否定できないため、女性が好む体位をとれるようにすることが勧められます。

(監訳 江藤 宏美)

翻訳公開日:2014年 5月 13日

ご注意:この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。